



平成 20 年 5 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社エーワン精密

代表者名 代表取締役社長 林 哲也

(J A S D A Q ・ コード 6 1 5 6)

問合せ先

役職・氏名 代表取締役社長 林 哲也

電話 (0 4 2) 3 6 3 - 1 0 3 9 (代)

平成 2 0 年 6 月 期 業 績 予 想 及 び 期 末 配 当 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成19年8月10日付当社「平成19年6月期決算短信（非連結）」において発表いたしました平成20年6月期（平成19年7月1日～平成20年6月30日）の業績予想及び期末配当予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 通期業績予想の修正等

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 期 末 配 当 金
前 回 予 想 (A)	2, 400	922	1, 002	643	12, 900 円 00 銭
今 回 修 正 (B)	2, 201	778	818	542	10, 800 円 00 銭
増 減 額 (B - A)	▲ 198	▲ 143	▲ 184	▲ 101	▲ 2, 100 円 00 銭
増 減 率	▲ 8. 3%	▲ 15. 6%	▲ 18. 4%	▲ 15. 7%	▲ 16. 3%

2. 修正理由

当社の今上期における製造業の業況は、エネルギー・原材料価格の上昇、金融不安に起因する世界的な景気減速懸念等により生産調整が進展し、特に当社の顧客層の大部分を占める下請企業・中小規模企業において受注の落ち込みが顕著に見られました。それまで下請企業に出ていた数量の多い部品加工が急速に減少し、機械稼働率が低下したため消耗工具の買替需要が減退し、当社の売上も大きく影響を受けました。昨年春先から数量の多い加工が急速に減少したかわりに、単品・少量品の加工や複雑な加工などが外注企業に出回っており、昨年後半には加工効率は低下したものの今年に入ってから機械稼働率は上昇に転じ、確実に下請・中小企業の業況は底打ちしたものと思われま。

このような状況の中、当社としましては、主力のコレットチャック部門でハイスコレットチャックの対応機種を増やし、受注体制整備を進め、また切削工具部門で特殊品の製造に本格的に参加し新たな顧客層の拡大と既存顧客からの新たな需要喚起をし、着実に成果を上げてきましたが、

今上期の売上の落ち込みを挽回し、当初の通期業績予想を達成するのは困難と判断し、通期業績予想を修正いたしました。

なお、売上高の減少率に比べ、経常利益の減少率が大きいのは、当初の業績予想に見込んでいた有価証券売却益の計上がなかった事によります。

3. 期末配当予想の修正

今回業績予想の修正に伴い、当初1株当たりの期末配当金予想12,900円00銭（年間配当金12,900円00銭）を10,800円00銭（年間配当金10,800円00銭）と修正させていただきます。

4. 修正理由

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識し、経営基盤強化のために必要な内部留保を確保しつつ、経営的な安定配当を行うことを基本方針としております。このような方針に基づき、配当性向30%を目標としております。

今回の業績予想の修正に伴い、当期純利益が、減少したため配当性向30%を基準にし、期末配当予想の修正を行います。これは、株主に対する利益還元を毎期の利益の30%とする原則に則り安定配当を行い、かつ来期以降予定している設備投資の準備資金蓄積を図るためであります。

上記見通しは、本資料発表日現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、さまざまな要因によって、予想数値と異なる場合があります。

5. 参考：前期の実績

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当
通期(H18/7～H19/6)	2,210	847	948	562	11,200円00銭

以 上